

シン学校プロジェクト (第 1 期)

対象校の決定について

2024（令和 6）年 8 月

一宮市

1 はじめに

2023（令和 5）年 6 月の総合教育会議において、私から教育委員会に提案し、8 月 24 日の記者会見での発表から始まった「シン学校プロジェクト」は、2024（令和 6）年 6 月 7 日まで対象校を決定するための募集を行いました。その結果、市立小中学校全 61 校のうち 24 校に対して、地域の団体や個人の方から 53 件ものご応募をいただき、このプロジェクトに対する地域の皆さまの関心の高さを実感しました。

提案では、校舎の老朽化対策にとどまらず、公民館や児童館、児童クラブ、消防署、診療所など様々な施設との複合化や、災害を想定した防災機能の強化など、地域の抱える課題が掘り起こされ、提案に込められた皆さまの熱意は、今後続く「シン学校プロジェクト」によって、各地域での充実した未来のまちづくりにつながるものと確信しました。ご提案をいただいた多くの皆さまに感謝いたします。

いただいた提案は、シン学校プロジェクト候補校選定委員会や教育委員会の皆さまに熱心に検討・議論していただき、2024（令和 6）年 7 月 2 日の候補校選定委員会からの報告書等を基に、2024（令和 6）年 7 月 26 日の総合教育会議において第 1 期プロジェクトの対象校 10 校を決定しました。対象校については、今後開催するワークショップの中で、未来を担う子どもたちの学びの場に、子育てや福祉、健康などを組み入れる小中学校の新しい在り方を幅広く検討し、校舎改築の基本計画を作りあげていきます。

また、手続きに時間を要するため今回採用できなかった「学校区の再編」を伴う提案の学校については、今後も引き続き地域の皆さまと協議を行い、地域全体の合意が形成できれば、優先的に採用していきたいと考えています。

今回は対象校に選ぶことができなかった学校についても、いただいた提案は次のシン学校プロジェクトの検討ベースに引き継がれます。今後も地域で話題としていただき、さらに良い提案として、次の機会にご披露いただけることを期待します。

このプロジェクトを通して、地域の皆さまが協力して地元の学校に対する提案をしていただいている姿に、地域の明るい未来を感じました。皆さまの想いを形にすることで、子どもたちの未来を、そして、一宮市の将来を、ともにブラッシュアップしていきましょう。

2024 年 8 月 7 日

一宮市長 中 野 正 康

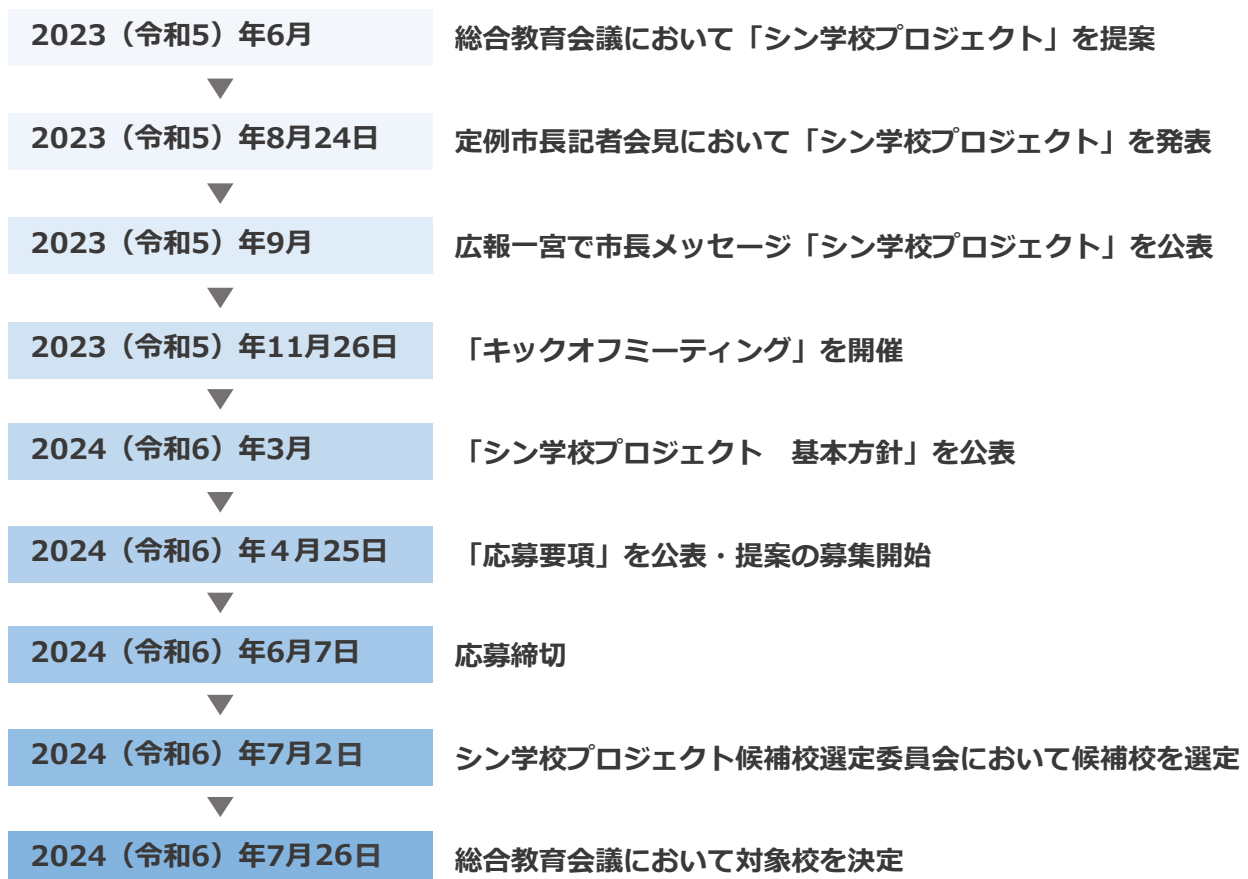
2 対象校決定の流れ

シン学校プロジェクトは、2023（令和5）年6月の総合教育会議（市長と教育委員で教育に係る諸問題について協議する会議体）において中野市長から提案されたものであり、2023（令和5）年8月24日の定例市長記者会見で発表するとともに2023（令和5）年9月号 広報一宮で市長メッセージとして公表し、始動しました。少子化が進み児童生徒数が減少する中で、単に古くなった校舎を順番に建て替えていくのではなく、新しい時代にふさわしい学校の在り方について、市民・地域の皆さまからご意見をいただいて、一緒に考えていこうというものです。

2023（令和5）年11月26日には、「キックオフミーティング」を開催し、一宮市の学校施設の現状と今後の児童生徒数の見通しやシン学校プロジェクトの概要をお伝えするとともに、基調講演やパネルディスカッションを通して、先進事例や検討のポイントを参加者の皆さまと共有しました。

その後、2024（令和6）年3月には「シン学校プロジェクト 基本方針」を公表し、2024（令和6）年度～2034（令和16）年度の第1期プロジェクト（前期、後期）の候補となる学校の提案を2024（令和6）年4月25日から募集しました。

その結果、2024（令和6）年6月7日の応募締め切りまでに、53件の応募がありました。その後、学識経験者等を委員としたシン学校プロジェクト候補校選定委員会で提案書類を審査し、候補校を選定しました。候補校選定委員会の選定結果を踏まえ、2024（令和6）年7月26日の総合教育会議において、第1期プロジェクト（前期、後期）の対象校を決定しました。



3 審議

3-1 第1期対象校として決定された学校について

候補校選定委員会により選定された 24 校の提案に対し、総合教育会議において、「校舎の老朽化の度合い」、「行政ニーズ」、「提案内容の実現性」、「地域で協議された提案」などについて審議しました。

順位	学校名	対象校舎	建築年	提案内容	複合化が検討可能な施設	候補校選定委員会評価点	校舎の老朽化度	行政ニーズ	提案内容の実現性	地域で協議された提案	合計
1	小信中島小	北舎	S29	一部建替えて児童クラブと複合化	児童クラブ	93	24	15	10	10	152.0
2	富士小	北舎・南舎	S33	全面建替えて公民館と児童館・児童クラブとの複合化	公民館・児童クラブ	83	20	20	10	10	143.0
3	今伊勢小	北舎	S30	老朽校舎を建替えて公民館と児童館・児童クラブとの複合化	児童クラブ	79.8	23	15	8	10	135.8
4	黒田小	中舎・南舎	S32	老朽校舎の建替え、防災拠点・地域コミュニティ拠点	－	80.4	21	10	8	10	129.4
5	宮西小	本館・中舎・北舎	S32	全面建替えて公民館との複合化	公民館	72.8	21	15	6	10	124.8
6	大和南小	全校舎	S53	改築して大和南中学校と小中一貫校、児童クラブと複合化	児童クラブ	88.8	0	15	10	10	123.8
7	朝日東小	本館・東館・西館	S31	全面建替えて朝日西小学校と尾西第二中学校の小中一貫校、学区の再編、クリニックや保育園等の併設	－	81.2	22	0	6	10	119.2
8	木曽川西小	管理棟	S33	老朽校舎の建替え、防災拠点・地域コミュニティ拠点	－	80.4	20	0	8	10	118.4
9	西成小	北舎	S36	老朽校舎の改修とコミュニティステーションの設置	－	78.4	17	10	8	0	113.4
10	中部中	北舎・南舎	S29	神山小学校と入替えて全面建替え	－	74.2	24	0	2	10	110.2
11	北方中	北舎・南舎	S39	全面建替えて北方小学校と小中一貫校、空いた小学校をリノベーションしてコミュニティ施設・児童館・保育園との複合化	保育園2園	65.8	14	20	8	0	107.8
12	南部中	南舎	S31	老朽校舎を建替えていこいの広場と複合化、市民が利用できる図書館の併設	－	63.4	22	10	8	0	103.4
13	北部中	北館	S29	老朽校舎の建替え	－	53.2	24	10	10	0	97.2

<14位以下>

赤見小、浅野小、浅井中、奥小、奥中、木曽川中、北方小、瀬部小、大志小、西成東部中、萩原中（50音順）

※1 朝日東小学校と中部中学校の提案は「学区の再編」を伴う提案であり、手続きを含めて第1期の期間中には工事が終わらないため第1期の対象校からは除外

※2 木曽川西小学校の老朽校舎は職員室のある管理棟と給食室であり、児童・生徒がいる老朽校舎を優先的に採用するため第1期の対象校から除外

※3 14位以下の審査結果については省略

前期および後期の区分、選定の理由は下記の通りです。但し、提案の内容については、今後策定される基本計画において原案としますが、事業の内容として確定しているものではありません。

区分	対象校	提案の概要	前期または後期に選定した理由
前期	小信中島小学校	・校舎減築と校舎改修による機能向上 ・児童クラブ、防災施設の併設 ・調理室、プールの撤去	・地域づくり協議会が中心となり、良く協議された提案であるため。 ・築 69 年の校舎が対象であるため。
	富士小学校	・公民館、児童館・児童クラブとの複合化	・全校舎（北舎・南舎）が築 65 年を筆頭に築 60 年を経過しているため。
	大和南小学校	・小中一貫校（大和南小学校の校舎を大和南中学校との施設一体型校舎に改築） ・放課後児童クラブ等との複合化 ・教育課程特例制度を活用し、校区外からの転入による学校規模の適正化	・市内小学校の中でも校舎の健全度が著しく低いため。 ・2028 年にはすべての学年が 1 クラスになる予測がされているため。
	南部中学校	・老朽化した校舎の建替え ・浅野いこいの広場、市民が利用できる図書館の併設	・南舎が築 67 年と築 62 年の建物から出来ており、早急に建替えが必要であるため。
	北部中学校	・老朽化した校舎の建替	・北館全体が築 69 年を筆頭に築 60 年を経過しており、早急に建替えが必要であるため。
後期	今伊勢小学校	・公民館、児童館・児童クラブとの複合化	・一部、築 68 年の校舎があるが、その他は築 60 年に達していないため。
	黒田小学校	・老朽化した校舎の建替え ・防災拠点としての学校 ・地域コミュニティ拠点としての学校	・校舎の半数（中舎、南舎、給食室）が築 66 年を筆頭に築 60 年を経過しているため。 ・給食を単独調理場から中央方式に切り替えるため。
	宮西小学校	・校舎建替えと地区公民館との複合化	・公民館との複合化を提案されているが、現状複数の移転先の選択肢があり、移転先の決定に時間を要するため。 ・中舎が築 66 年のものと築 64 年のものがあるため。
	西成小学校	・より快適な学びの場、地域社会のふれあいの場、超高齢社会への対応の場 ・より充実した災害時の指定避難所となるようリノベーション	・築 62 年の校舎があり建替えの対象にはなるが、他の対象校にくらべ築年数が少なく優先度が低いため。
	北方中学校	・中学校のグラウンドに（北方小学校を取り込んだ）小中一貫校を新設 ・小学校校舎をコミュニティ施設、児童館、保育園等にリノベーション（民間施設も入れる）	・2027 年度から児童・生徒数の減少予測があり、減少を確認した後の着手が望ましいため。 ・校舎の築年数が 40 年代と新しいため。

3-2 第1期対象校に選定しなかったが、今後協議を進めていく学校について

下記の2校については第1期対象校としては選定しませんでした。学校区の再編を伴うものとして、今後協議を進めていく予定です。提案の概要と評価の結果を下記に示します。

学校名	提案の概要	評価の結果
朝日東小学校	・朝日西小学校、尾西第二中学校との小中一貫校 ・学校区の再編	小中学校の積極的な統合を視野に入れ、小中一貫校として地域の防災拠点とする考えがまとまっており、地域の熱意を感じられた。
中部中学校	・神山小学校との入替え移転による全面建替え ・学校区の再編	連区地域づくり協議会及び学校運営協議会で議論がされ提案が共有されており、地域の熱意を感じられた。

4 シン学校プロジェクト候補校選定委員会を終えて

2023（令和 5）年 6 月の総合教育会議において、一宮市の小中学校における校舎の更新に関する「シン学校プロジェクト」が提案された。各学校の整備に向けた検討の具体化に当たって、地域の熱意やアイデアをふまえて決定するというこれまでにない方針がここで示された。2024（令和 6）年 3 月に「シン学校プロジェクト基本方針」が公表され、対象校決定の詳細について 6 月 7 日を締切とする応募が開始された。

その結果、市立小中学校 61 校のうち 24 校に対して、地域の団体や個人から 53 件の応募があった。応募内容は、学校の統廃合・小中一貫を目指した再編、児童クラブ・公民館など地域公共施設の複合、災害時の防災強化、新たな教育環境づくり、地域と学校の連携を強化するコミュニティスクール、環境負荷に配慮したエコスクールなど、地域の実情に応じた多様な提案がなされた。応募期間が短期であったにもかかわらず予想以上の応募がなされ、地域において学校施設の在り方について関心がいかに高いかを知ることとなった。

各委員は、すべての応募書類を精読し、実施方針、課題の認識、理想とする学校の姿、実施方策、検討経緯・参画意向の視点から評価を行った。その後、応募書類ごとに各専門的見地から意見交換を行い、最終的な評価内容の確認を行った。限られた時間内に地域内で現状課題を的確に把握し、新たな将来像を示す応募に対しては一定の評価がなされた。一方、積極的な提案内容であっても実現に向けて解決すべき課題を残すものや、地域内での合意形成が必要な提案については評価とともに付言している。応募書類が不十分なため提案内容を読み取ることのできない応募もあったが、地域の熱意は感じ取ることができた。

公共の学校施設は子どもの教育支援と地域社会のインフラとしての大きな役割を担っており、その整備にあたって行政は市全体の将来像を見据えた展望が求められる。今回応募のあった地域からの提案内容は、地域の実情を踏まえた切実なものであった。候補校選定委員会は応募書類をもとに評価結果を示したが、最終的な整備対象は総合教育会議に委ねることになる。地域の実情を踏まえ、市としての鳥瞰的な視点から総合的な判断を期待したい。なお、築 60 年以上の校舎を保有する小中学校が 2023 年時点で 23 校あり、今回のプロジェクトとは別に長寿命化改修などを視野に入れていただきたい。

シン学校プロジェクトに応募頂いた全ての方に、感謝申し上げます。

2024 年 7 月 2 日

シン学校プロジェクト候補校選定委員会

委員長 鈴木 賢一